

令和8年度 調布市立北ノ台小学校 学校経営計画（学校長 門田 英朗）

学校の教育目標	
◎思いやりのある子ども（徳）	○よく考える子ども（知）
○明るく元気な子ども（体）	
目指す学校像(ビジョン) 例) 学校像、教員像、児童・生徒像	
目指す学校像：多様な関わりの中で、全ての子どもたちが自らのよさや可能性を引き出し伸ばす学校 ～多様な子どもたちが共に学び、育ち合う柔軟なカリキュラムや、誰もが能力を発揮できる環境整備を目指す～	
ビジョンの設定理由 (本校の現状と課題)	調布市教育委員会が掲げる教育目標を達成するため、本校の教育目標を基に現状を捉え、人権尊重の精神を基盤とし、徳・知・体の調和のとれた豊かな人間性と、社会の変化に主体的に対応し、新しい未来を創造していくための資質・能力を育成する。児童が自分の力を最大限発揮できる環境を作り、児童の可能性を広げる学びを支えていく。
中期的な経営目標	
<ol style="list-style-type: none"> <li>① 周囲とのよりよい関係性を築けるよう、他者との話し合いを通して自己の考えを深める力を育成</li> <li>② 探究的な学習を通して、他者と協働して課題解決できる力を育成</li> <li>③ 日常的に運動に親しむ児童を増やすとともに、健康への意識を高め、命を守る行動ができる力を育成</li> <li>④ 全ての教職員が児童の特性に応じた指導・支援を実施</li> <li>⑤ 豊かな国際感覚を醸成するとともに、我が国の歴史や伝統文化に親しむ活動を推進</li> <li>⑥ 社会に開かれた学校運営を進めるとともに、保護者・地域と一体となって特色ある教育活動を展開</li> </ol>	
人・組 教職員同士の心理的安全性の確保、個人の学びとチームによる学び合いが機能する働きがいのある組織づくり	

調布市立学校における共通した領域 <短期的な経営目標>		
1 豊かな心(徳)	2 確かな学力(知)	3 健やかな体(体)
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①主体的に考え、議論する道徳授業の実践をするとともに、いじめについて考える授業を全学級で各学期1回、年間で3回行う。	①全教科等を教科担任制や交換授業等を行い、専門性の高い授業を展開することにより、児童に基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図る。	①「自己指導能力」を身に付けさせるために、児童に自己選択、自己決定させる場を設ける。「みんなのきまり」は全教職員で共通理解を図り、挨拶や正しい言葉遣い等の習慣を身に付けさせる。
②不登校児童の解消や新規不登校児童を生まないために心の居場所づくりの充実に努める。	②年間9回の校内研究を柱として、児童が主体的に学習に取り組めるよう、「主体的・対話的で深い学び」となるよう、授業の工夫・改善を行う。	②食育を充実させるとともに、スポーツフェスティバル、長縄跳び・短縄跳び週間、猛暑期に実施するダブルダッチ、ちょこプラ1調布等を行うことで、健康や運動に対する児童の興味・関心を高め、運動することの楽しさや喜びを味わえるようにする。
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①児童アンケート「いじめをしないで仲良く」80%以上、保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80%以上、教職員評価「いじめ授業」80%以上	①児童アンケート「授業の内容が分かる」80%以上、保護者アンケート「楽しく分かりやすい授業」80%以上、教職員評価「計画的な指導」80%以上	①児童アンケート「すすんで挨拶」80%以上、保護者アンケート「すすんで挨拶」80%以上、教職員評価「自己指導能力」80%以上、「学校のきまり」80%以上
②児童アンケート「先生に相談できる」80%以上、保護者アンケート「子供たちが安心して生活」80%以上、教職員評価「不登校児童の居場所づくり」80%以上	②児童アンケート「すすんで学習している」80%以上、教職員評価「授業の工夫」80%以上、「児童の実態に応じた工夫・改善」80%以上	②保護者アンケート「体力の向上や健康を保つための指導」80点以上、教職員評価「食育の充実」80%以上、体力テストTスコア50以上
学校の特色を生かした領域 <短期的な経営目標>		
4 特別支援教育の推進	5 いじめ・不登校対応の充実	6 CSとの協働
(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)	(1) 取組目標 (具体的方策)
①基礎・基本の定着を図るために、本時の振り返り等を配慮した授業を実施する。	①学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ対策委員会を毎月開催し、未然防止・早期発見に努める。	①学校運営協議会を計画的に実施する。
②特別な支援が必要な児童(レベル2以上)全員の教育支援計画・個別指導計画を作成する。	②不登校対策委員会を毎月開催し、不登校傾向のある児童に対して、積極的な関わりをする。	②CSと地域学校協働本部を中心とした地域の教育力を活用
(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)	(2) 成果目標 (数値目標)
①「授業」に関する児童アンケートで肯定的評価を90%以上にする。	①「いじめ」に関する保護者アンケートで肯定的評価を80%以上にする。	① 学校運営協議会を年11回実施する。
②支援が必要な児童に対して、個別の教育支援計画及び個別指導計画を100%作成し、活用する。	②児童アンケート「学校は楽しい」という質問で肯定的評価を80%以上にする。	②「地域」に関する保護者アンケートの肯定的評価を80%以上にする。

### 人材育成・組織運営

- 速やかな意思決定・伝達と全教職員による各分担の確実な業務執行（活発なコミュニケーションを核とした共通認識の徹底）
- サービスの厳正、来校者への接遇（挨拶や身だしなみ等の教育公務員としての意識徹底）
- 職層や経験年数に応じた職務の遂行、一人一人の取組の重点の共有・相互支援（自己申告書の活用）
- 危機管理体制の一層の充実
- 昇任に係る制度の着実な周知と個々の教職員のキャリアアップ支援
- 計画的な休暇を取得しやすい職場環境や雰囲気整備。「ライフスタイル・イノベーション」につなげていく。